



平成 29 年 3 月 28 日

各 位

会 社 名	株 式 会 社	千 葉 銀 行
代 表 者 名	取 締 役 頭 取	佐 久 間 英 利
	(コード番号 8331 東証第一部)	
問 合 せ 先 責 任 者	経 営 企 画 部 長	篠 崎 忠 義
		(TEL043-245-1111)

第 13 次中期経営計画「ベストバンク 2020 Final Stage - 価値共創の 3 年」 の策定について

千葉銀行（頭取 佐久間英利）は、新たに 2017（平成 29）年 4 月から 2020（平成 32）年 3 月を計画期間とする第 13 次中期経営計画を策定いたしましたので、概要を下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 名 称

「ベストバンク 2020 Final Stage - 価値共創の 3 年」

- 本中期経営計画は、現中期経営計画「ベストバンク 2020 - 価値創造の 3 年」から続く「リテール・ベストバンク」グループの実現に向けた総仕上げの 3 年（Final Stage）と位置付けています。
- 「お客さま」「株主」「従業員」「地域社会」など多様なステークホルダーとともに共通価値を創造（価値共創）することで、先進的かつ高い生産性と揺るぎない信頼を確立し、地域とともに持続的な成長を目指してまいります。

当行が目指す「リテール・ベストバンク」グループとは
先進的なサービスで個人や中小企業をはじめとした地域のお客さまに、最高の満足と感動を提供する金融グループ

2. 計画期間

3 年間（2017 年 4 月～2020 年 3 月）

3. 環境認識と計画のねらい

- 日本経済は、緩やかな回復基調を維持していますが、少子高齢化の進行や財政健全化に対する懸念、海外政治・経済の不確実性の高まりなどにより、先行きの不透明感は増えています。
- 千葉県は、東京オリンピック・パラリンピックの開催や交通インフラの整備が進むなど、引き続き高い成長が期待されますが、現状の予測では 2020 年頃を境に人口が減少に転じる見込みとなっています。さらに、スマートフォンの普及など社会全体のデジタル化が急速に進み、近い将来銀行業務にも大きな環境変化が生じることが予想されます。

- こうした環境認識のなか、地方創生への取組みを一段と強化していくとともに、保証・担保に依存するのではなく、取引先企業の事業内容や成長可能性等の評価（事業性評価）をつうじた本業支援や「お客さま本位」の業務運営（フィデューシャリー・デューティー）の徹底など、お客さまにとって価値ある総合金融サービスを提供することでお客さまとの信頼関係をより深め、当行自身の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を実現していきます。
- また、デジタル化への対応による先進的で利便性の高いサービスの提供や、抜本的な業務改革による生産性の向上を進めていきます。さらに、引き続き千葉県を主要基盤としつつ営業基盤拡充や「千葉・武蔵野アライアンス」の推進により首都圏全体でのシェア拡大を図ってまいります。そして、「TSUBASA金融システム高度化アライアンス」では、地域の枠を超えた協働をさらに進めていきます。

4. 主要課題

本中期経営計画では、「お客さまとの共通価値の創造」「全ての職員が輝く働き方改革の実現」「持続的成長に向けた経営態勢の強化」の3つの主要課題に取り組んでまいります。

当行は、「お客さま第一主義」のもと、価値ある総合金融サービスを提供するとともに、ダイバーシティや働き方改革の推進により魅力的で働きがいのある職場づくりを進め、地域の活性化をリードしてまいります。

【主要課題Ⅰ お客さまとの共通価値の創造】

- 事業性評価の推進と地方創生への積極的な貢献
- 「お客さま本位」の業務運営（フィデューシャリー・デューティー）の強化
- 多様化するニーズに対応した個人向け総合金融サービスの提供
- デジタル化に対応した新たなサービスの創造
- 首都圏でのリテール基盤の拡充
- グローバル化に対応した国際業務の強化
- CS向上活動の一層の充実

【主要課題Ⅱ 全ての職員が輝く働き方改革の実現】

- プロフェッショナル人材の育成
- ダイバーシティの一層の推進
- 働き方改革の促進

【主要課題Ⅲ 持続的成長に向けた経営態勢の強化】

- 戦略的アライアンスの推進
(千葉・武蔵野アライアンス、TSUBASAアライアンス)
- グループ一体経営の促進
- 業務効率化の促進
- 運用力・収益力の強化
- リスク管理態勢の強化
- コンプライアンスの徹底
- ESG*課題への積極的・能動的な対応
※ESG=環境 (Environment)、社会 (Social)、ガバナンス (Governance)

5. 目標とする指標

	2020年3月期目標
親会社株主に帰属する当期純利益	600億円
連結ROE※	7%台
連結普通株式等Tier1比率	12%台
貸出金残高	10兆5,000億円
預金残高	12兆5,000億円
グループ預かり資産残高	2兆5,000億円

※「資本=株主資本」にて算出

以上

<本件に関するお問い合わせ先>

経営企画部 企画グループ 眞下^{ましも}

電話：043-245-1111（内線7346）

＜目指す姿＞

先進的なサービスで個人や中小企業をはじめとした地域のお客さまに、最高の満足と感動を提供する

「リテール・ベストバンク」グループ を目指します



「お客さま第一主義」を徹底し、先進的なサービスやソリューションの提供をつうじてお客さまのニーズにスピード感をもってお応えします



ダイバーシティの一層の推進や働き方改革をつうじて、職員一人ひとりが能力を最大限発揮し働きがいのある魅力的な職場をつくります



地域のリーディングバンクとして、グループの総力を結集し、地域の活性化をリードしていきます

＜主要課題＞

お客さまとの共通価値の創造

- 事業性評価の推進と地方創生への積極的な貢献
- 「お客さま本位」の業務運営（フィデューシャリー・デューティ）の強化
- 多様化するニーズに対応した個人向け総合金融サービスの提供
- デジタル化に対応した新たなサービスの創造
- 首都圏でのリテール基盤の拡充
- グローバル化に対応した国際業務の強化
- CS向上活動の一層の充実

全ての職員が輝く働き方改革の実現

- プロフェッショナル人材の育成
- ダイバーシティの一層の推進
- 働き方改革の促進

持続的成長に向けた経営態勢の強化

- 戦略的アライアンスの推進（千葉・武蔵野アライアンス、TSUBASAアライアンス）
- グループ一体経営の促進
- 業務効率化の促進
- 運用力・収益力の強化
- リスク管理態勢の強化
- コンプライアンスの徹底
- ESG*課題への積極的・能動的な対応

*ESG=環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)

目標とする指標	親会社株主に帰属する当期純利益	連結ROE*	連結普通株式等Tier1比率	貸出金残高	預金残高	グループ預かり資産残高
2020年3月期	600億円	7%台	12%台	10兆5,000億円	12兆5,000億円	2兆5,000億円

※【資本=株主資本】にて算出